

寄稿

3

当財団の取り組みについて



(一財)湊組グループ記念財団
理事長

菅本 昌克



【はじめに】

「紀の川は今日もかがやく海に～♪」から始まる「湊組グループ」のCMを、和歌山にお住まいの方はテレビ和歌山でご覧いただいたことがあると思います。昭和53年にCM放送が開始され、その終盤には「地域社会とともに（地域社会の発展に貢献する）湊組グループ」というフレーズが流れて参ります。このフレーズはCMの放映当初から使っている言葉であり、湊組グループの理念であります。

しかし時代とともに企業を取り巻く環境が変わり、企業が担う社会的責任（CSR）の重要性が日々高まっていることを考えますと、湊組グループは「本当に地域社会に貢献できているのか？」と改めて私自身疑問に感じておりました。

【設立の経緯】

これまでは湊組グループとして、雇用の創出や地域イベント等への参加などを地域に対する貢献活動であると考えておりました。

しかし約4年前コロナウイルスの感染拡大が日本のみならず世界中に広まり、当時は未知のウイルスということもあり、子供たちの学校生活をはじめ各種のスポーツ競技大会・伝統的なお祭り行事の開催自粛等々、あらゆる活動の制限と全ての人に対する行動規制が求められる状況となり、苦しい環境下に置かれている子供たちや地域住民の様子を見る機会が増えておりました。

そういった様子を見るにつけ湊組グループとして、直接手を差し伸べられる活動に取り組み、各種団体を通じ子供たちや地域住民の皆さまのお力になれる活動ができないものかと考えるに至りました。

熟慮の結果、財団法人を立ち上げることで、各支援活動に取り組む拠点として機能させ、地域社会の皆さまに対する貢献活動の一助になるべく「一般財団法人 湊組グループ記念財団」（以下「財団」という。）を設立させていただくことといたしました。

【財団の目的】

財団設立にあたり、『長く継続的に広く皆様のお役に立てる支援活動』を設立趣意として、令和3年7月に「一般財団法人 湊組グループ記念財団」として活動をスタートいたしました。また設立にあたり、株式会社湊組・合資会社湊組（現：株式会社湊組興産）から出資頂くと共に、湊組グループ各社からのご寄附も頂戴し、小規模ではありますが各事業を展開しております。（現在一般からのご寄附はお受けしておりません。）

【支援先の現状】

財団としての事業を選定するにあたり、支援の候補として検討している団体を取り巻く状況と既に支援を行っておられる公私の各種機関が設けている条件などについて、有識者の方々からお聞きし、現状及び改善点についてご意見を伺いました。

○お伺いした現状と改善点

＜奨学金制度の現状＞

- ・貸与型奨学金として貸与
⇒ 卒業後返済が始まると生活プランに支障をきたす（社会問題化している）

＜県立学校の現状＞

- ・一般の小中高等学校は、各種任意団体等から寄贈を受ける機会がある。
⇒ 特別支援学校は寄贈を受ける機会も少なく、また使用している器具や備品は専門的なものが多く高額のため予算的に購入が難しい。

＜学校以外の教育活動団体の現状＞

- ・県内市町村教育委員会が所管する「子どもの居場所づくり推進活動」（以下「居場所づくり事業」という。）を実施している団体（教室）は、広く県内各地に設置されており、今後も拡大予定である。
⇒ 予算の問題で各教室の運営及び学習教材等の調達に苦慮している。現状は地元協力者の方々からのご厚意に頼らざるを

得ない状況である。

＜文化保護等の団体の現状＞

- ・県内の文化や伝統芸能などを保護する団体及び活動について、年々理解を得られにくくなっている状況の中、コロナ禍によりお祭り等の開催自粛や規模縮小など相当な影響を受けている。
⇒ 官民からの補助及び寄附により文化保護団体の活動を行っている現状であり、コロナ禍以後寄附調達も苦戦しており、保護活動に係る財源確保が厳しい状況である。

＜スポーツ団体の現状＞

- ・メジャー・マイナーを問わずスポーツ団体は県内に多数あり、老若男女問わずスポーツ競技を行っている人口は多い。
⇒ しかしメジャースポーツではない種目、特に国民スポーツ大会実施競技に選ばれていない場合、競技人口が多いにも関わらず予算が回らない現状である。また競技に使用する備品等の老朽化や大会を開催するための運営費不足に陥っている団体も多くある。

財団として上記それぞれの現状と抱えている課題を考慮し、微力ながらもお手伝いができるよう各事業に取り組んでおります。

【事業内容】

主な事業内容として、以下5つの事業を中心に行っております。

1. 奨学金事業
2. 学校への助成金事業
3. 学校以外の教育活動団体への援助
4. 文化保護等の団体への援助
5. スポーツ活動を行っている団体への援助

2～5の助成及び援助活動は、これまで3年間で行ってきた実例を交えてご説明いたします。なおいずれの事業においても、事業運営のご

協力と助成先・援助先の選定する際のご助言を和歌山県教育委員会にご協力いただいております。より適切な助成活動を継続して行うよう研鑽を深めて参ります。

(奨学金事業)

和歌山県在住で県内の高等学校（全日制・定時制や公立私立は問わず）を卒業予定であって、大学・短期大学への進学を希望する住民税非課税世帯に該当する方を対象に修学の援助を行っております。なお奨学金の種類は、給付型奨学金として返済の必要はない方式を採用しております。

事業としては令和5年4月入学予定者を第1期生として募集活動を行い、毎年募集を行っております。本年は令和6年6月から7月末日までの期間を応募期間として、第3期の募集活動を行いました。

<奨学生の分布 実績>

- ・和歌山市
- ・海南市
- ・田辺市
- ・新宮市
- ・白浜町

和歌山県内各地からご応募いただき、選考委員会において審査・検討の結果、上記市町村にお住まいの方に財団の奨学生として奨学金の支給を行っております。

(但し出身高校及び人数は諸般の事情により不記載とさせていただきます)

財団の所在地である和歌山市在住の方だけでなく、県内各地から大変多くの方々にご応募いただいております。

奨学生の募集については、財団ホームページに詳細を記載しておりますが、県内広く周知活動を行うため、和歌山県教育委員会にご協力を頂き、県内全ての高等学校へ校内掲示用ポスターを配布していただいております。また和歌山県教育委員会が発刊しております

給付・貸与制度の冊子「応援サポート」に毎年奨学生の募集を掲載していただき、その効果もあり応募総数も年々増加しており、広く浸透しつつあると実感しております。



応援サポート冊子

(学校への助成金事業)

和歌山県立の特別支援学校全10校を対象として、学校で使用する教材やスポーツ用具等の寄贈を行っております。

また財団が小規模であることもあり、区分を限定することで広く県内全域を対象とした助成金活動を行えるとの思いから、特別支援学校を対象としております。

<令和3年度 実績>

- ・県立和歌山ろう学校 フットサルゴール他
- ・県立和歌山さくら支援学校 ボッチャ競技用セット他
- ・県立きのかわ支援学校 ボッチャ競技用セット他

<令和4年度 実績>

- ・県立和歌山盲学校 円周走用具セット他
- ・県立みはま支援学校 フロアカーリングセット他
- ・県立紀伊コスモス支援学校 フロアカーリングセット他

<令和5年度 実績>

- ・県立紀北支援学校 ソフトボール用具
- ・県立南紀はまゆう支援学校 ソフトボールユニフォーム
- ・県立たちばな支援学校 折りたたみフットサル用ゴール他

毎年度実施している県立特別支援学校3校に対する寄贈事業について、令和6年度を以て県

内の10校全て助成活動が一通り終わることになります。助成先として2度目となる支援学校に対しても引き続きの助成活動を行って参ります。



きのかわ支援学校 ポッチャ競技用セット



和歌山盲学校 円周走用具セット



たちばな支援学校
折りたたみフットサル用ゴール他

(学校以外の教育活動団体への援助)

居場所づくり事業の活動を行っている教育活動団体を対象として、支援を行っております。

<令和3年度 実績>

- ・広小学校 放課後まなびルーム【広川町】 学習支援教材 iPad 他

<令和4年度 実績>

- ・Y・Yルーム【湯浅町】 体験学習用教材他

<令和5年度 実績>

- ・由良子ども未来塾【由良町】 電子キーボード他
- ・生馬公民館（寺子屋塾）【上富田町】 書画カメラ等物品他
- ・学文路・清水地域まなびルーム【橋本市】 算数・国語学習用教材他

令和5年度より過去2年に行った1団体から3団体に増枠し寄贈を行っており、本年度も引き続き3団体に対する支援活動を行って参ります。



Y・Yルーム【湯浅町】 体験学習用教材他



生馬公民館（寺子屋塾）【上富田町】
書画カメラ等物品

(文化保護等の団体への援助)

和歌山県の文化活動事業の保存等に関わる団体を対象として、寄贈を行っております。この文化保護等に援助することで、後世に残すべき文化や伝統を伝承していくことを主眼とし支援を行っております。

<令和3年度 実績>

- ・和歌山県民俗芸能保存協会 民俗芸能大会 等助成金

<令和4年度 実績>

- ・熊野速玉大社祭事保存会 神倉神社お燈祭り助成金

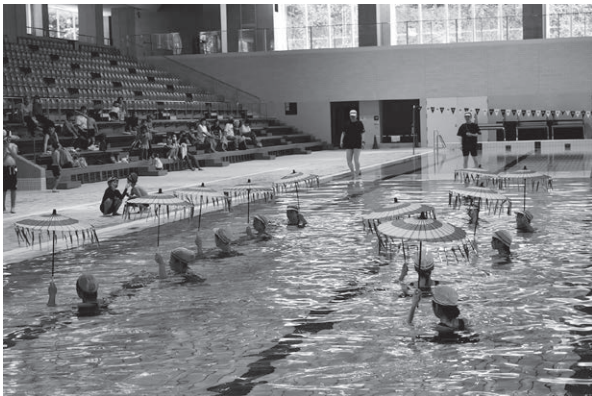
<令和5年度 実績>

- ・岩倉流泳法保存会 後継者育成用映像記録作成費

本年度も引き続き文化保護の団体に対する支援活動を行って参ります。



県民俗芸能保存協会 民俗芸能大会等助成金



岩倉流泳法保存会 後継者育成用映像記録作成費

(スポーツ活動を行っている団体への援助)

県体育協会に加盟し、国民スポーツ大会実施競技ではないスポーツ活動を行っている団体を対象として、寄贈を行っております。

<令和3年度 実績>

- ・和歌山県日本拳法連盟 競技用デジタルタイマー

<令和4年度 実績>

- ・和歌山県スポーツウエルネス吹矢協会 競技体験用備品他

<令和5年度 実績>

- ・和歌山県ダンススポーツ連盟 社交ダンス用の音響機器

本年度も引き続き国民スポーツ大会実施競技ではないスポーツ活動団体に対する支援活動を行って参ります。



県日本拳法連盟 競技用デジタルタイマー



県スポーツウエルネス吹矢協会
競技体験用備品他

【事業実施後の反応】

奨学金事業として開始2年目を迎えました。本年4月に第1期の奨学生が2回生となり、奨学生としての継続手続きを行っております。

奨学生からは奨学金を勉強やスポーツ・短期留学等に利用させていただいているとのうれしい報告を受け、微力ながら少しでも奨学生の手助けになっていることを実感しております。

学校への助成金事業は、毎年実施した特別支援学校にご訪問させていただき、贈呈式を開催しております。

当日は、支援先の各校長先生から学校の取り組みや現状について、現場のお話を直接お聞きできる貴重な機会となっており、事業運営の参考とさせていただいております。

生徒の方々は、非常に礼儀正しくいつも感心するのですが、物品をお渡しいたしますと、皆さま笑顔で大変喜んでいただき、継続的にお支え出来ればと考えております。



R3年度贈呈式（県教育長）



R3年度贈呈式（広川町教育委員長）

また令和4年度に助成金事業として支援した和歌山盲学校から、昨年9月に臨床実習先として按摩の実習をさせていただきたいとお申し出があり、10名弱の実習を受け入れております。

ご縁のありました人々や団体様とのつながりは今後も大事にして参ります。



盲学校の生徒による臨床実習

学校以外の教育活動団体（居場所づくり事業）への援助について、通っている子供たちから、お渡しした物品を楽しく利用している様子を書いたお手紙をいただいております。ニーズに合った支援が出来ていると安心しております。

援助した文化保護等の団体からは、実際に支援した物品の活用方法や活用した時のお話などをお聞かせいただいております。また実際に支援品を使ったイベント等の写真をいただき拝見しております。

スポーツ活動を行っている団体からも、実際に支援品を使用し開催した競技大会やそのスポーツを一般に普及するための活動を行った写真をいただき拝見しております。

【今後の方針】

奨学金事業は、再来年の令和8年4月には大学1～4回生までの4学年が揃うこととなります。昨年まではコロナ禍ということもあって、開催を自粛しておりましたが、4学年が揃うタイミングで奨学生の交流会を開催したいと考えております。

交流会では、4回生から大学生活を送る上で

のアドバイスや就職活動の苦勞話など、奨学生同士がざっくばらんにお話し出来る場を設けたいと考えております。また現在の奨学生1学年あたりの定員につきましても増枠する方向で検討を始めております。

各助成金活動及び支援活動については、これまでの関係各所からお聞かせいただいたお話や社会情勢・ニーズなどを総合的に勘案し、より皆様のお役に立てる事業に成長していきけるように精進していく所存であります。

今後とも財団へのご協力をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。なお事業に関する応募やその他お問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

(奨学金)

和歌山県教育庁（県教育委員会）
生涯学習局 生涯学習課
電話（073）441-3663
平日9時～17時45分（土日祝除く）

(全ての事業)

一般財団法人 湊組グループ記念財団
電話（073）453-0120
平日9時～17時（土日祝除く）

※財団のホームページからも詳細を確認することが出来ます。下記二次元バーコードを読み取る若しくは湊組グループ記念財団と検索しご確認ください。

